

第四百十話 鉄道連隊：鉄道建設に任じた陸軍部隊

第六十一話「知られざる壮大な夢と頓挫」で大東亜共栄圏の骨幹交通路、大東亜縦貫鉄道を紹介したが、それを請け負ったのが、鉄道連隊である。国内外で現在も使用されている路線を含む多数の鉄道を建設した。その鉄道連隊について述べる。

1 鉄道建設部隊の創設と拡大

日清戦争後に、占領地への軍用資材をスムーズに補給する必要性が議論され、独の例に倣って、1896 (M29) 年「鉄道大隊」が編成された。義和団の乱では、臨時鉄道隊が編成され、日露戦争では、京義線建設の監督、安奉線や新奉線の軽便鉄道建設等に任じた。日露戦後の1907 (M40) 年に鉄道連隊に昇格した。

連隊は、連隊本部 57 名、三個大隊 (HQ、3 個中隊 (107 名))、材料廠合わせて 1091 名であった。(1940/7 時点)

2 第一及び第二鉄道連隊の転戦

1 連隊は、1896 (M29) 年鉄道大隊として、陸軍士官学校内に創設され、中野を経て、連隊に昇格後、津田沼 (現習志野市) に移動、そして 2 個連隊増設時に 1 連隊は千葉 (都賀村作草部) に位置した。関東大震災鉄道復旧債業に従事したほか、満州、中国華北・華中で鉄道占領・運営に任じた。1943 年、隷下 2 個大隊を蘭印に転用。千葉公園は連隊の作業場跡

2 連隊は、1 連隊 3 大隊を以て編成。編成地津田沼。関東大震災復旧作業の他、満州・華北を転戦した。1945 年主力が九州に移転、連隊正門は千葉工大にあり国の登録有形文化財に指定



3 第三連隊から二十連隊

1 又は 2 連隊を母体に、逐次に編成された。支那事変間に編成された連隊はわずか 4 個連隊のみであり、1944 (S19) 年に 8 個連隊、1945 (S20) 年に 5 個連隊が新設された。

4 今も現役の路線も

戦地のみならず国内各地でも訓練を兼ねて鉄道建設を請け負った。建設費は、材料費のみ負担するだけだったので、鉄道事業者から重宝されたという。

(1) 現在も活用されている路線

- ①東武野田線 ②久留里線 ③西武新宿線 (高田馬場～東村山) ④身延線
- ⑤小湊鉄道線

(2) 廃線

- ①成田鉄道多古線 (1946/10 廃止) ②成田鉄道八街線 (1940/5 廃止)
- ③夷隅鉄道 (1927/9 廃業) ④西武大宮線 (1941 年廃業)
- ⑤福島交通飯坂東線の改軌・電化 (1971 年廃業)
- ⑥庁南茂原間人車軌道 (1909～1926)
- ⑦中島飛行機専用線 (1944/10) 三鷹駅～武蔵製作所、東久留米～田無製作所
空襲で破壊
- ⑧東京急行電鉄代田連絡線

世田谷代田駅～新代田駅 戦時中に敷設・使用され、戦後まもなく撤去

(3) 外地

- 北樺太軽便鉄道、南満州鉄道安奉線 (満鉄)、
- 京義線 (1905 年開通ソウル～新義州約 500 km、現在は 38 度線で分断)
- 泰緬鉄道 (1943 年開通 バンコク～ヤンゴン)、スマトラ横断鉄道 (220 km)

* 軍事的目的とは言え、インフラ整備に寄与した功績は大きい。

(第四百十話 了)